

いさはや 日赤だより

広報誌

2020

第18号

3



院内展示

サヴィニャック
の絵画



日本赤十字社キャラクター

ハートちゃん

医局
特集

胸部CTの被曝線量

ユマニチュード実践者育成研修レポート ... 05

令和元年度 患者満足度調査 結果報告 ... 07



日本赤十字社 長崎原爆諫早病院
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

病院の理念

赤十字精神のもと、地域並びに被爆者の皆様に
「心のこもった良質な医療」を提供します

病院の基本方針

1. 赤十字基本原則のもと、患者中心の医療を提供します
2. 被爆者の健康管理と診療の充実に努めます
3. 医療連携を促進し、救急医療をはじめ地域医療に取り組みます
4. 政策医療である結核医療の充実に努めます
5. 赤十字病院として災害時の医療救護活動を行います
6. 職員の自己研鑽・人材育成に努め、患者さんに信頼される医療人を育成します

患者の皆様の権利

1. 個人の尊厳が尊重される権利があります
2. 良質の医療を公平に受ける権利があります
3. 診療・治療に関する説明を受ける権利があります
4. 診療・治療行為を選択し決定する権利があります
5. 個人情報を守られる権利があります
6. 臨床研究に参加する権利と拒否する権利があります

ご挨拶



院長 古河 隆二

広報誌「いさはや日赤だより」の第18号が出来上がりましたのでお届けします。令和2年はじめての日赤便りであり、私が院長としての最後の挨拶となります。

平成22年4月に長崎原爆病院副院長から、この諫早日赤病院に院長として赴任してちょうど10年となりました。当時、赤十字病院は全国に92病院ありましたが、現在は91病院となっています。赤十字病院には大小様々な病院があり、700床以上の病院が7施設、500から699床が19施設、200から499床が43施設、諫早日赤のような100床台が14施設、分院も含めた100床未満が10施設あります。

しかし、昨今の医療環境は諫早日赤のような病床規模の小さな病院にとっては厳しいものとなってきています。昨年9月には、突然厚労省から再編統合検討が必要な公立・公的病院424病院が発表され、この中には当院をはじめ赤十字病院が24施設含まれていました。この結果、患者さんや職員の中には病院が無くなってしまうのかといった不安・動揺が広がりました。まず申し上げておきたいことは、諫早日赤病院は絶対に無くなる事はないということです。この厚労省による検討は、平成29年6月1ヶ月間のDPCデータのみで検討されており、対象病院のその地域での役割などが加味されたものではなく、当院に関しても、当院の大きな役目である結核医療の事は除外されており、正に机上の空論としか言いようがありません。事実、結核は過去の病気ではなく、平成30年度の長崎県の結核罹患率は大阪について全国で2位なのです。さらに今の結核は高齢者が多いため合併症を持った方も多く見られており、毎年2,000人以上が亡くなっています。当院でも、平成30年度は75名が入院し、入院延べ数3,686人、病床稼働率は50.5%、平均在院日数49日、死亡者数は7名でした。

厚労省から指摘されるまでもなく、当院は県央地域での当院の役割や諸般の医療環境を鑑み、すでに平成28年10月より急性期病床を100床から51床へと減床し、地域包括病床を12床から52床と増床して新しく出発しています。そして当院の大切な役割である結核治療を病床20床のまま続けています。

当院は内科単独の病院であり、今後もその特徴を生かして、長崎大学や長崎医療センター、諫早総合病院、長崎原爆病院などの急性期病院からの患者受け入れを促進し、在宅医療や後方病院への橋渡し役をするハブ病院として機能を果して参ります。

そのために医療連携室を充実させ、前方連携、後方連携のさらなる拡充に努めてきました。そして在宅患者さんの看護のための訪問看護ステーション、さらには医師による訪問診療も開始して地域の皆様には良質の医療を提供してきました。また「在宅医療を支えるための入院」としての所謂レスパイト入院の受け入れ病院としての役割も担っています。この間、当初理学療法士3名だけだったリハビリ職員を理学療法士6名、作業療法士4名、言語聴覚士1名の11名まで増員し、急性期治療の終わった患者さんのリハビリと社会復帰へのお手伝いをしています。

これからも地域に密着した赤十字病院として、そして医療、介護をつなぐ病院として「心のこもった良質な医療」を展開し、患者さんとその御家族から信頼され、頼られる病院をめざして職員一同研鑽を積んで参りますのでよろしくお願い申し上げます。

医局特集

胸部CTの被曝線量

肺がん検診の場合、および診療での経過観察撮影について

現在行われているCTによる肺がん検診は小さい病変を見逃さないために、必要十分な画質を担保し、かつそれから得られた画像の解析などに対して、一定以上の技能・実績・能力を備えた放射線技師、読影医、およびこれら検診システムを支える適切な施設が必要です。これ等を達成するために「特定非営利活動法人 肺がんCT検診認定機構」によって講習会や認定試験などが随時行われています。

この中で特にCT撮影に関しては、低線量での撮影が義務付けられています。

一般に低線量では放射線被曝の低減が図れる一方、画質は悪化します。しかし、これまでの多くの研究により、肺がん検診のCT撮影に当たっては、一般診療に比べ格段に低い線量での撮影でもその目的を達成できるというコンセンサスがあります。症状がなく、そのほとんどが結果的に健常者である対象者に対しては、被曝低減を最大限にすべく、低線量CTによる検診を行うべきであると考えられているのです（参照1）。

当院においてもこれ等の事を考慮して、肺がんCT検診の撮影では、管電流を通常の1/7に下げて撮影し（50mA）、薄いスライス画像の再構成（3mm厚）を行っています（参照2）。

参照1：「日本における低線量CTによる肺がん検診の考え方 日本CT検診学会 ガイドライン委員会」より

参照2：特定非営利活動法人日本CT検診学会（以下「CT検診学会」）のホームページ（<http://www.jscts.org/index.php>）に掲載されている「肺癌検診用MDCT撮影マニュアル【日本語】」を遵守することが求められる。

当院においては、2014年11月に80列マルチスライスCT「東芝®Aquilion PRIME (Focus Edition)」が導入されました。

この80列CTはそれまでの当院16列CTと比較して、患者さんにとってメリットの高いCT装置となっています。短い息止めでの撮影（胸部や腹部の広範囲領域をこれまで12～18秒かかっていたものを約4～6秒で撮影）、より低被曝での検査が可能となっています。

先にも述べたように、撮影時間や照射線量とこれから得られる画質は相反する関係にあり、撮影時間を短くし照射線量を少なくするほど、ノイズが増えて画質は低下していきます。これを解決するためにこのCTにはAIDR 3Dという逐次近似再構成法を用いた低線量撮影技術が標準装備されています。またVolumECという自動撮影法（患者さんの体型や撮影部位に合わせて線量を連続的に自動調節し、最適線量で撮影ができる）を用いて撮影しています。

さらに当院独自の取り決めとして、経過観察目的での再撮影では初回の通常線量よりも線量を落として撮影するようにしています。その結果初回の被曝量よりも低い被曝線量で撮影できるようになってます。

それでは具体的にどれくらい被曝量が減少したのか、実際に調べてみました。2013年/4～6月（16列）と2017年4～6月（80列）に撮影された胸部CTにおける被曝線量を比較してみました。

表1に対象となる方の人数、年齢をお示しします。初回の標準撮影で異常陰影が見つかって、その変化を見るために経過観察目的で再撮影された方の人数を「低線量撮影1」に、また80列CTでは、再々撮影以降はさらに電流を落として撮影しておりこの方の人数を「低線量撮影2」の項目に示しています。人数の下の（）内は撮影電流の値です（単位はmA（ミリアンペア）です）。

表2にその結果をお示しします。単位はmSv（ミリシーベルト）です。16列CTでは初回平均6.82mSvが再撮影では平均3.29mSvへと51.8%の被曝量の減少を、また80列CTでは初回平均5.02mSvだったのが、再撮影では2.04mSvへと59.4%の減少、さらに再々撮影では平均1.40mSvと初回よりもなんと72.1%もの被曝量の減少を認めています。

次に新旧の機種での被曝量の違いを見てみましょう（表3）。初回の標準撮影では、以前の16列と現在の80列で平均6.82から5.02mSvへ26.4%の減少を、再撮影（低線量撮影1）では平均3.29から2.04mSvへと38.0%の減少でした。肺がんCTにおいても平均1.64から1.11mSvへと32.3%の減少が見られ、肺がんCTでも確実に被曝線量は低下していました。

さらに表4に示すように、16列での初回撮影と80列での再々撮影を比較してみると、なんと79.5%もの被曝量低減がみられました。

諫早日赤病院が開院してからはや15年ほどがたち、開院当初の4列CTから16列、そして現在の80列CTとCT技術の発展とともに、さらにまた再撮影・再々撮影における撮影法の工夫により、驚くほどの被曝量の減少がもたらされてきたという事を、少しでも多くの方にご理解頂ければと願っています。

表1：対象者数など

胸部CT	2013年/4-6月	2017年/4-6月
延べ人数	1169名 (男699 女471)	1019名 (男610 女409)
年齢	11~103才 (平均69.6才)	16~101才 (平均70.5才)
標準撮影	408名 (200mA)	155名 (350mA)
低線量撮影1	672名 (100mA)	95名 (200mA)
低線量撮影2	—	670名 (100mA)
肺がんCT	89名 (50mA)	99名 (50mA)

表2：平均被曝線量の比較（同一機種間）

被曝線量（mSv）平均値の比較

胸部CT	2013年/4-6月	2017年/4-6月
標準撮影	6.82	5.02
低線量撮影1	3.29 差：-3.53 (-51.8%)	2.04 差：-2.98 (-59.4%)
低線量撮影2	—	1.40 差：-3.62 (-72.1%)

被曝線量線量当量（mSv）

表3：平均被曝線量の比較（新旧の機種間）

被曝線量（mSv）平均値の比較

胸部CT	2013年/4-6月	2017年/4-6月	差
標準撮影	6.82	5.02	-1.80 (-26.4%)
低線量撮影1	3.29	2.04	-1.25 (-38.0%)
低線量撮影2	—	1.40	—
肺がんCT	1.64	1.11	-0.53 (-32.3%)

被曝線量 線量当量（mSv）

表4

被曝線量（mSv）平均値の比較

胸部CT	2013年/4-6月	2017年/4-6月	差
標準撮影	6.82	5.02	-1.80 (-26.4%)
低線量撮影1	3.29	2.04	-1.25 (-38.0%)
低線量撮影2	—	1.40	-5.42 (-79.5%)
肺がんCT	1.64	1.11	-0.53 (-32.3%)

被曝線量 線量当量（mSv）

当院において

ユマニチュード実践者育成

4日間研修 が行われました！

～2019年12月から「ユマニチュードを用いた認知症ケア」を諫早日赤病院の全職員で行おうと、ユマニチュード導入に向けた取り組みが開始されました～

ユマニチュードとは、知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションに基づいたケア技法です。「人とは何か」「ケアをする人とは何か」を問う哲学と、それに基づく実践的な技術から成り立っています。

当院では、ユマニチュード実践者育成4日間研修を受ける前から、認知症ケアワーキンググループのメンバーを中心に、ユマニチュードを用いた認知症ケアに力を注いでいました。

認知症に関する研修やユマニチュードの学習会を行い、日々の看護実践につなげようとしていましたが、上手くいかないことも多くありました。

そのような中、ユマニチュード認定インストラクターの林紗美さんと丸藤由紀さんをお迎えしての、ユマニチュード実践者育成4日間研修が実現しました！

ユマニチュードの基本的な概念

見る



話す



触れる



立つ





ユマニチュード実践者育成4日間研修で、実際にインストラクターの方と一緒にケアを行うことができ、長年寝たきりだった患者さんを車椅子に座らせることができたり、ケアに激しく抵抗したり、大声を出す患者さんに対し、穏やかに着替えや清拭ができたりと、本当に魔法のような技術を目の当たりにすることができました。いつもは反応が薄い患者さんが生き生きとした表情をしている姿を見ることができ、病棟は感動で包まれました。



また、研修の一環として、インストラクターの林紗美さんと高澤君予さんによる、全職員に対するユマニチュード特別講演会が12月3日と12月5日に開催され、ユマニチュードを知らなかった職員も「やってみてみたいと思った」「人間らしく対応することとは、認知症の人に限らず、全ての人に必要だと思った」との感想が聞かれ、ユマニチュードの哲学が院内の多職種に浸透していくきっかけになったと感じました。

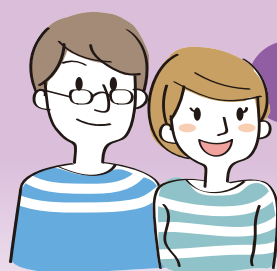


研修が終了した後でも、ユマニチュードの技術を用いることで認知症患者さんの反応を感じることができ、患者さんもスタッフも笑顔が増えるなど良い影響が見られています。



これからも、ユマニチュードを用いた認知症ケアが全職員に定着し、優しさと笑顔であふれた病院となるように、取り組みを進めていきたいと思っています。





令和元年度 患者満足度調査

結果報告



当院では1年に1度、患者の皆さんに当院の医療や患者サービスなどを評価していただき、また医療・サービスに対するご意見をいただいています。今回のアンケートでは外来・入院・訪問看護・健診の患者さんを対象に患者満足度調査のアンケートを実施しました。

調査実施状況について

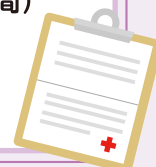


調査期間

外 来：令和元年11月12日～14日（3日間）
健 診：令和元年11月15日～29日（2週間）
入 院・訪 問 看 護：令和元年11月1日～29日

回 答 数

外来218名、健診68名、入院129名、訪問看護29名



■ 大変満足 ■ 満足 ■ 不満 ■ 大変不満 ■ 無回答

外 来

待ち時間 について

診察までの待ち時間



待ち時間の職員の対応



会計での待ち時間



(%)

医師の診察 について

病気や治療方針・検査等についての説明



質問や相談のしやすさ



診察時間



(%)



患者さんからの
コメント

- 呼名はプライバシーの点で気になる。
- 駐車場から公園の整備をお願いします。
- 病院に夜来るとき、駐車場が暗く、足元が見えない。
- 診察までの待ち時間が長い。
- 駐車場が狭い。など

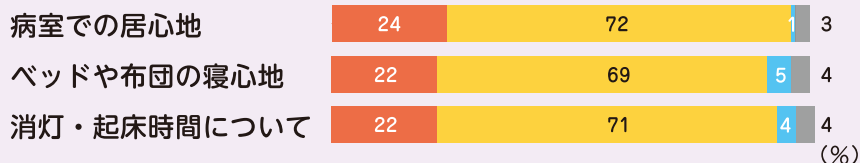


サービス向上 委員会から

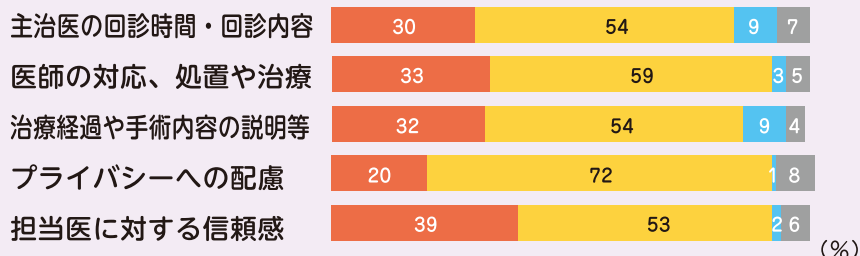
- プライバシーの件につきましては、患者誤認防止等の観点からフルネームでお呼びする対応を行っております。お名前での呼び出しをやめてもらいたいと思われる方は職員におっしゃっていただければ、プライバシーに配慮した対応をいたします。
- 駐車場の明かりの件につきましては、現在設置中の街路灯の点灯時間延長で対応できないか検討しております。その上で、夜間駐車場内がまだ暗く、対応不十分の場合は、街路灯の増設を検討して参ります。

入院

病床の環境について



担当医について



患者さんからのコメント

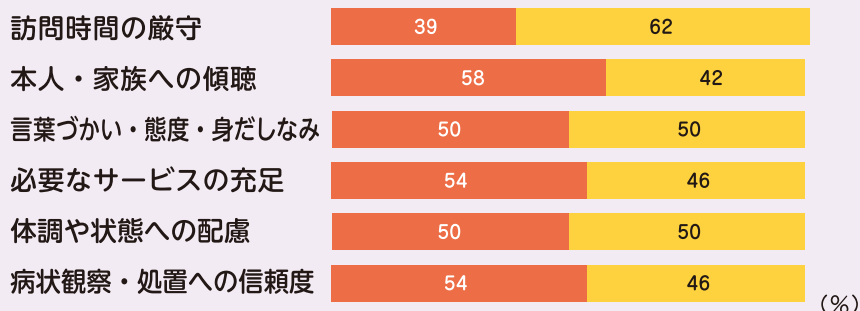
- 1人の方に聞いたら、すべて答えてもらえるような方がいたらいいと思う。
- 薬が変わったことや病状に変化があった時は、看護師からでもいいので教えて欲しい。
- 採血・エコーなどの結果を教えてください。
- この病院にお世話になって、大変良かったです。
- いつも丁寧に感謝申し上げます。末長くよろしくお願いします。 など

サービス向上委員会から

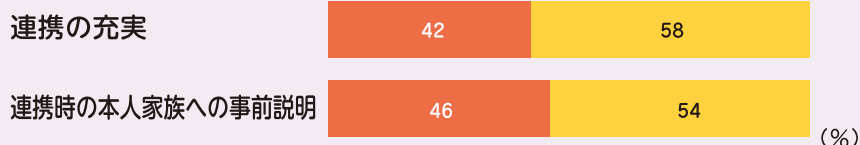
- 出来る限り素早く誠意ある対応を行い、安心して入院生活を送れるような対応を心掛けてまいります。
- 今後は、受け持ち看護師を中心に看護師間で情報を共有し、検査や治療に関し変更があった場合には、早い段階で可能な限り看護師から説明や声かけを行うよう取り組んでまいります。
- 説明が足りず、申し訳ありません。採血、エコーなどの結果の説明は、医師からの説明となるため、できるだけ早く結果を伝えられるよう、医師と連携し取り組んでまいります。

訪問看護

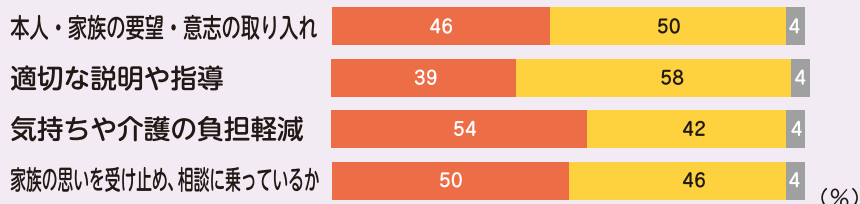
訪問看護師のサービスについて



サービス事業所との連携について



家族への対応について





患者さんからのコメント

- いつも大変よくして頂いてます。
- 患者に寄り添いいつでも相談ができ、本当に心強く思っています。わがままなときはちゃんと注意して頂いて助かっています。これからもよろしくお願い致します。
- 定期訪問だけでなくこちらが要望する日に訪問して頂ける方法を取り入れてもらえると嬉しいです。



サービス向上委員会から

- 訪問に関しては柔軟に対応させていただきます。遠慮なくお声をかけてください。患者さん、ご家族に寄り添えるよう努めていきます。ご意見（ご指摘）ありがとうございました。

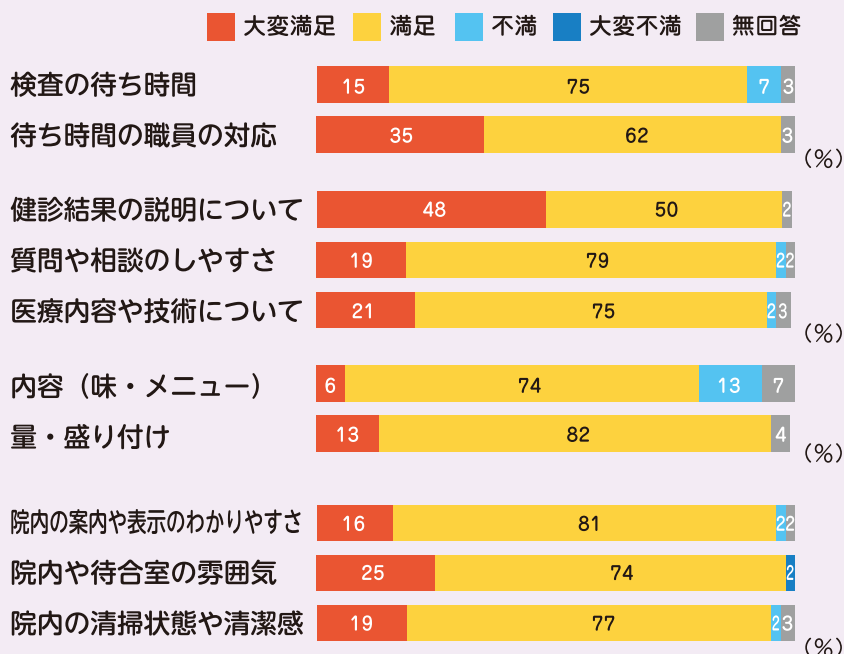
健診

検査について

医師について

食事について

施設について



患者さんからのコメント

- 保険証のコピーが適切に処理されているのか心配、不安。
- 待合室、検査室が寒かったので、ほんの少し暖かいところがあればよかった。
- 昼食のサラダと温かいスープ、食後のコーヒーはよかったです。
- すべてにおいて、先生、看護師さん好感度バツグンでした。



サービス向上委員会から

- 保険証の件につきましては、健康保険組合への確認に使用しています。コピーしたものは、担当の者が鍵付きの棚に一定期間保管し、個人情報が出ないように処分しております。
- 待合室が寒かった件につきましては、配慮が足らずに申し訳ありませんでした。集中管理方式のエアコンのため、スポットでの温度調整が難しい箇所もありますが、対応できる箇所もありますので、エアコンの温度調整については、遠慮なく職員にお申し付け下さい。また、ブランケットを購入し、エコー室や待合室に配置しましたので、こちらもご利用下さい。

院内コンサートが開催されました!!



大正琴



オカリナ

12月20日に13回目の
赤十字奉仕団 琴和会の方々による
クリスマスコンサートが開催されました。
約1時間という短い時間でしたが、聴き
なじみのある懐かしい音楽に心癒される
ひとときを過ごすことが
できました。

栄養課から 春のおすすめ レシピ

春が旬の野菜はいろいろありますが、定番料理に少し旬のものを
取り入れるだけで、季節の味を手軽に楽しめます。今回はたけの
こ菜の花を使ったレシピを紹介したいと思います。夏には、
うなぎなどに具材を替えてアレンジするのも良いかも。

春ちらし～菜の花添え～



作り方

- 鍋に **A** を合わせて、加熱し、すし酢を作る。
- ごはんとすし酢を混ぜて冷ます。
- B** 生鮭の切り身に軽く塩を振って焼き、身をほぐす。
- C** たけのこ、水に戻した干しいたけ、人参は粗みじん切りにして分量の調味料で煮る。(汁気はとばす)
- D** 薄焼き卵を作り、千切りにして錦糸卵を作る。
- 3,4** を酢飯と混ぜて、錦糸卵を上にはらす。
- いりどりに、塩ゆでし、ごま油と塩であえた菜の花やきざみのりを盛り付けてできあがり。



材 料 (4人分)

- ごはん ……………600g
酢 ……………大さじ4(60g)
A 砂糖 ……………大さじ4(35g)
塩 ……………小さじ1(1g)
(※市販のすし酢…大さじ4でもOK!)
- B** 生鮭切り身…2切れ(1切れ約70g)
塩……………小さじ1
- C** たけのこ……………60g
干しいたけ ……2枚(4g)
人参 ……中1/3本(40g)
淡口しょうゆ…大さじ1(20g)
砂糖……………大さじ1(10g)
しいたけの戻し汁…100cc
- D** 卵……………2個
油……………
- 菜の花……………1束(80g)
ごま油……………小さじ1(4g)
塩……………ひとつまみ
きざみのり

エネルギー	たんぱく質	脂 質	食塩相当量
409kcal	17.1g	5.8g	1.7g

フットサル部の紹介



去年の8月よりフットサル部を結成しました。基本的に第1・3週目の木曜日に3時間程度活動を行っています。なかなか人数が集まらないこともあるため、外部より助っ人を呼びながら行っていますが、仲良く楽しみながら活動しています。5月には九州ブロック赤十字病院職員親善スポーツ大会があるため、出場できるよう今後も継続的に練習を行っていききたいと思います。



日本赤十字社長崎原爆諫早病院

外来担当医一覧表

○印の医師は新患担当兼務、その他医師は予約の患者さんが優先となります。

令和元年11月30日付で魚谷医師が退職し、同年12月1日付で森田医師が引き継いで診療いたします。

令和2年3月1日現在

	診察室	月	火	水	木	金
内科外来 午前 受付 8:30~11:00	1	○志垣 雅誉 (消化器)	○松竹 豊司 (呼吸器)	○藤本 真澄 (消化器・肝臓)	○近藤 晃 (呼吸器)	○加治屋 勇二 (消化器・肝臓)
	2	福島 喜代康 (呼吸器)	長尾 正一 (循環器)	福島 喜代康 (呼吸器)	福島 喜代康 (呼吸器)	松竹 豊司 (呼吸器)
	3	近藤 晃 (呼吸器)	江原 尚美 (呼吸器)	森田 茂樹 (糖尿病・内分泌)	古河 隆二 (消化器・肝臓)	江原 尚美 (呼吸器)
	4	田崎 洋文 (循環器)	猪口 薫 (消化器・肝臓)	長尾 正一 (循環器)	猪口 薫 (消化器・肝臓)	長尾 正一 (循環器)
	5	藤本 真澄 (消化器・肝臓)		加治屋 勇二 (消化器・肝臓)	田崎 洋文 (循環器)	森田 茂樹 (糖尿病・内分泌)
内科外来 午後		禁煙外来 福島、松竹 近藤、江原 (13:30~14:00)	呼吸不全外来 福島、松竹 近藤、江原 (13:00~15:30)	肝臓専門外来 古河 猪口 (13:00~15:00)		
			※第2、第3週の火曜日は呼吸器疾患の講義 (13:30~14:00)			
	ドック 総合判定 (13:30~14:30)	森田 加治屋／猪口	森田 近藤／古河	森田 長尾／志垣	森田 松竹／江原	森田 田崎／藤本



日本赤十字社 長崎原爆諫早病院

Japanese Red Cross Society

〒859-0497 諫早市多良見町化屋986番地2

病院代表 TEL 0957-43-2111 FAX 0957-43-2274

医療連携室 TEL 0957-27-2311 FAX 0957-43-2870

訪問看護ステーション TEL 0957-47-6344 FAX 0957-47-6399

受付時間 午前8:30~午前11:00

※当院は紹介状なしでも選定療養費のご負担はありません。

休診日 土・日・祝日、年末年始(12月29日~1月3日)
日本赤十字社創立記念日(5月1日)

ホームページ

<http://www.isahaya.jrc.or.jp/>

表紙について

島原半島サヴィニャックの会・代表近藤良明様のご厚意により、院内にサヴィニャックのポスター画を多く展示しております。絵の入替も不定期にさせていただいており、その度に病院が明るくリフレッシュされている印象です。